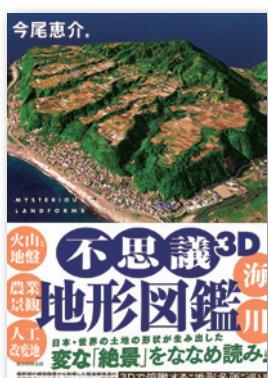


新刊案内

**デジタル・ジオグラフィーズ
変容する空間、地理学の変容**
ジェームズ アッシュ／ロブ キッチン／
アグニエシュカ レシュチンスキ【編著】
田中 雅大【監訳】
二村 太郎／桐村 喬／小泉 諒【訳】
明石書店 4,400円（税込）



不思議3D地形図鑑
今尾 恵介【著】
朝日新聞出版 2,420円（税込）



デジタルが社会の普遍的技術となった21世紀。空間（位置）・時間・人間を多面的に扱う地理学がどのように変化し、実在しない仮想空間を生み出したデジタルとどう向き合っていくのか。欧米の地理学者（25名）が近代～現代を振り返りつつ、都市やモビリティ、統計や産業、地政学などありとあらゆる側面から横断的に「デジタル」を考察し、「デジタル」そのものを主題として取り扱う近未来までの道筋を語る。

一般的な地理学の教科書とは異なり、地形や気候といった自然地理学的

な項目は含まれず、数式も出てこない。ビジュアルに依存しないスタイルが徹底され、図表は巻頭カラーの7点のみというのも特徴的。欧米社会を背景にした概念や専門用語も多く、全体的に人文科学オリエンテッドであることに留意は必要だろう。

章立ても極めてユニークで、特に社会学的テーマには執筆者自身の思想が色濃く表れている。「倫理」の章にある「空間のデータ化によって生まれ出される視認性には特定の政治性がある」という一文には唸らされた。

このような大著を日本語へ翻訳した訳者の労力には敬意を表したい。

超高解像度を誇る地球観測衛星画像と、全世界の3次元データを包含するサービスAW3D、DEMに画像を貼り付け自由なアングルを表現できる3DCADソフトの組み合わせで、日本や世界の個性的な地形を俯瞰しようというのが本書。

前半は海・川・山の自然地形が主体。高精細な3D画像が見開き2ページで掲載され、機窓から眺めた風景の如くダイナミックなイメージが続く。意図的かどうか不明だが、画像範囲の矩形で端が途切れているほうが向きや傾きが直感的に分かりやすい。一部、撮像

付けられた陰影が打ち消しあって、凹凸感が掴みにくい画像があるのが玉に瑕だが、今尾氏お得意の地形図と対比することでより立体感が出るだろう。

後半に出てくる、菱形の区画が連なる干拓地や、条里制区画が残る碁盤目状農地などは画像も見事だが、その歴史的経緯に対する今尾節全開の解説が秀逸。山を削った空き地に敷き詰められたソーラーパネルやレーダー基地の跡地など、最後の人工改変地の章はいろいろ考えさせられるものがあった。

された時点での日陰と、疑似3D化で

A D I N D E X

広告主	掲載面	URL
あ アドバンスド・コア・テクノロジー	表3	http://www.act-inc.jp/
岩城印刷	28	http://www.iwaki-pr.co.jp/
ESRI ジャパン	32	https://www.esrij.com/
NV5 Geospatial	8	https://www.nv5geospatialsoftware.co.jp/
さ ジオカタログ	表2	https://geocatalog.co.jp/
ジオサーフ	31	https://www.geosurf.net/
た 中央ジオマチックス	30	https://www.chuogeomatics.jp/
地理情報開発	37	https://www.chiri.com/
Teledyne FLIR IIS	34	https://www.flir.com/discover/iis/
東京地図研究社	27	http://www.t-map.co.jp/
な 日本スーパーマップ	29	https://supermap.jp/
は パスコ	表4	https://www.pasco.co.jp/